

つばなまち

TSUNAN-MACHI

2013年7月22日発行

No.190

6月定例会：6/12～14

- ② 議員定数特別委員会の設置・補正予算・町道認定
一般質問…………… ③～⑨
- ⑨ 『笑いと涙の認知症介護劇』のお知らせ… ⑩～⑬
- ⑬ 委員会レポート…………… ⑭～⑮
- ⑮ シーズ私もちひと言…………… ⑰

“目指せ！
苗場山麓ジオパーク！”



平成25年第2回町議会定例会が、6月12日～14日までの3日間にわたり開催されました。12日と13日の2日間は、町行政全般に対し一般質問を行いました。

ここが聞きたい!

一般質問 (11議員)

- ① **根津 勝幸** 議員(4ページ)
農業就業人口の増加を
- ② **村山 道明** 議員(4ページ)
認知症の施設整備が必要では
- ③ **風巻 光明** 議員(5ページ)
地球温暖化に対する取組は
- ④ **中山 弘** 議員(5ページ)
自然保護のために独自の条例制定を
- ⑤ **石田 タマエ** 議員(6ページ)
介護予防の成果を上げる対策は
- ⑥ **恩田 稔** 議員(6ページ)
人口減少問題と歯止め策について
- ⑦ **大平 謙一** 議員(7ページ)
国の農業政策に追従するのか
- ⑧ **藤ノ木 浩子** 議員(7ページ)
アベノミクスの経済政策をどう見るか
- ⑨ **桑原 悠** 議員(8ページ)
TPPによる農家所得への影響は
- ⑩ **栗原 洋子** 議員(8ページ)
子供の医療費助成の拡充を
- ⑪ **滝澤 茂光** 議員(9ページ)
山林・原野の境界杭の更新を

町政を問う!!



役場前の苗場山麓開発事業竣工記念碑
「農を以て立町の基と為す」

補正予算

● 一般会計
原案どおり可決しました。
補正額 1億2,333万円
総額 64億7,420万円

● 議員定数特別委員会
現在の議員定数16名については、以前から議論されており、平成23年9月議会で議員定数削減案が否決されました。このたび、平成27年秋の町議会議員改選に向けて、議員定数の適正数を調査・研究し議論するため、6月定例会において議会運営委員長が発議により議案が提出されました。全員賛成で「議員定数特別委員会」の設置が可決されました。
この特別委員会は、議員の定数に関する調査をし、平成26年9月を目途に方向性を決定させる予定であります。委員は次の6名です。

- 委員長 大平 謙一
- 副委員長 藤ノ木 浩子
- 委員 伊林 康男
- 委員 根津 勝幸
- 委員 津端 眞一
- 委員 恩田 稔

簡易水道特別会計

補正額 705万円
総額 1億2,124万円
(主な内容)
津南原地内水道管布設替工事費

介護保険特別会計

補正額 21万円
総額 15億3,205万円
(主な内容)
制度改正システム改修委託料

社会体育用備品購入費

△1億9,125万円
536万円
(専決処分承認)
起業支援型地域雇用創造事業委託料

春季緊急消雪促進対策事業補助金

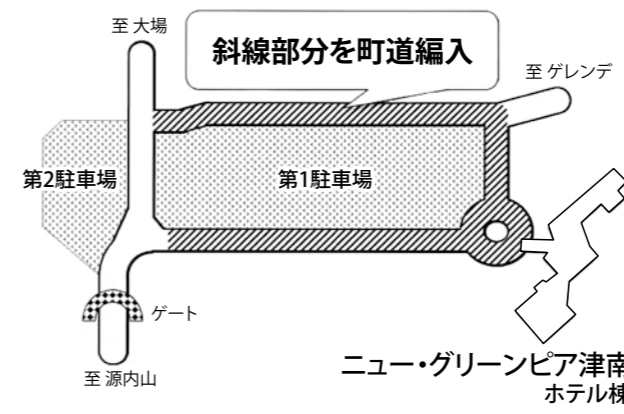
510万円
800万円

町道改良工事・道路路面点検委託料

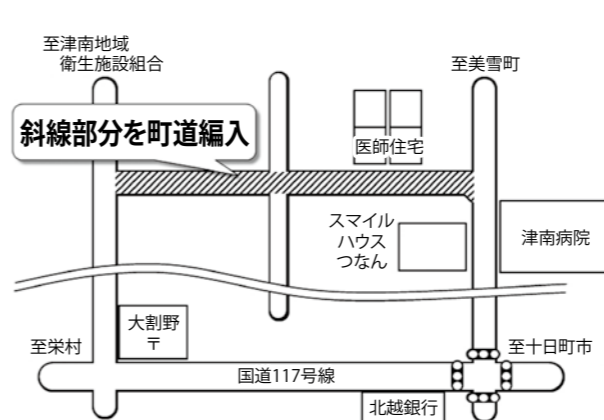
100万円

町道認定 (全員賛成)

次の2路線を町道編入として可決いたしました。その概要です。
① ニューグリーンピア線
路線延長 821・7m
(目的) 観光拠点ニュー・グリーンピア津南の正面玄関までの道路舗装を、町で改修するため町道に編入する。



② 病院医師住宅線(大割野地内)
路線延長 162・5m 幅員5m
(目的) ほ場道路であるが、近年一般車両の交通量が増えたことから、農地に碎石が入って困っている。また、すれ違いが困難な状態を解消するため舗装整備する。



● 一般会計
原案どおり可決しました。
補正額 1億2,333万円
総額 64億7,420万円

難道があるが、そのような道路があれば具体的に聞かせていただきたい。
答 玄関先までは、袋小路道路となっているので循環的な道路としたい。

答 舗装後は、除雪路線とするのか。除雪は、今後地元の要望で検討する。



風巻 光明 議員

町全体で地球温暖化対策の取組を

町長：CO₂と廃棄物の削減を積極的に行う

問 近頃、「地産・地消」という新しい言葉ができたように、津南町で発生した廃棄物は地域でリサイクルする考えはありますか。

町長 津南町衛生施設組合で「地域リサイクル推進事業奨励制度」があり、25団体が登録し、子供たちも含め環境教育として機能している。廃棄物の再資源化量は1,467トンを全体の19%までできている。

廃棄物のリサイクルは

問 地球温暖化は、温室効果ガスが原因、温暖化が進めば異常気象や水資源の枯渇、生態系の異変が発生するが、町としてどのような数値目標を持ち、改善していくのか問う。

町長 県では「地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、京都議定書の基準年比6%削減を目標とし、今後も各部門で展開していく。また町としては数値的にCO₂の排出は少ないほうだが、町ぐるみで電気・水道など資源の節約を、広報などで呼びかけ取り組んでいく。

温室効果ガスの削減目標と取組は

問 現在、発電には化石燃料や原子力が主流だが、いずれも限界がある。クリーンな自然エネルギーの活用について今後の町の取組を問う。

町長 国の自然エネルギーの買取制度から、雑水山水路にマイクロ発電を申請し認可を得た。出力は約46kwで年間7百万円の収益が見込まれ、今年本格的に調査する。また汚泥などのメタン発酵のバイオマス発電も検討していく。

再生可能エネルギーの取組について

問 昨年秋の豪雨災害の復旧工事の発注が今年の5月半ばになったが、どうしてか。

町長 昨年12月雪の中での国の査定となり、発注が遅れ関係者にご迷惑をかけた。同じことを繰り返さないよう指導を徹底してまいりたい。



自然エネルギーの活用を (太田新田ミニ水力発電)



根津 勝幸 議員

農業就業人口の増加を

町長：後継者の育成確保が重要課題

問 これからの津南の農業は、外部からの農業就業人口の増加が必要と考えるが、いかがか。

町長 農業立町を標榜し、農業者の高齢化が進む中で、農業後継者の育成確保は町の重要な課題のひとつと考える。県の新規就農者支援対策事業で資本整備等の支援や、国の新規就農総合支援事業を最大限活用し育成に努めている。町外からの新規就農者確保のため、昨年より4名を受け入れている。これまでの受け入れの実績は県下でもトップクラスであり、一定の評価を得ている。

問 目玉政策は行わないのか。

町長 目玉的に、「認証米制度」を行ったつもりはないが、「認証米制度」が結果的に目玉として受け止めていただけるようであれば大変ありがたい。

問 苗場山麓開発畑を活かすのに外国人の受け入れなどどううか。

町長 かつて、県でも検討した経緯はある。現在、原発事故でストップしているが、受け入れは考えてもいいと思う。

町の農業の先行きについて

問 雇用は分けて考える必要がある。経営が成り立つ農業が大事で、儲かる農業がどうしたらできるかが課題である。

災害に強い町づくり

問 昨年秋の豪雨災害の復旧工事の発注が今年の5月半ばになったが、どうしてか。

町長 昨年12月雪の中での国の査定となり、発注が遅れ関係者にご迷惑をかけた。同じことを繰り返さないよう指導を徹底してまいりたい。



発注遅れて1年間耕作できず

認知症の施設整備が必要だ

町長：施設ニーズの増加傾向は認識している

問 国の調査では、65歳以上の約5%が認知症の要介護者、85歳以上になると25%である。町内の65歳以上は3,864人で、認知症は約270人程度と思われる。認知症ケアにおけるグループホームなど施設整備が緊急の課題と思うが見解を問う。

町長 施設入所は、居住費など軽減措置がないため入所経費が高額になることから、ある程度経済的に余裕のある方が入る。今後、認知症高齢者の増加が予想され、施設整備の要望は増加傾向になると認識している。

福祉保健課長 グループホームか、介護支援施設がいいのか、来年度は、介護保険計画策定の年なので研究する。

福祉施設の増設を

問 畜産・酪農の配合飼料のほとんどは輸入に依存。昨年、米国での干ばつから価格が大幅に値上げされ、昨今の円安で更に急騰し続けている。経営の負担軽減に支援できないか。

飼料代高騰の支援を

問 畜産・酪農の配合飼料のほとんどは輸入に依存。昨年、米国での干ばつから価格が大幅に値上げされ、昨今の円安で更に急騰し続けている。経営の負担軽減に支援できないか。



畜産飼料運搬車 (6t)

累計欠損金の解消は

問 平成23年度病院事業会計決算で、累計欠損金が約11億円になっている。今後の解消策を問う。

町長 病院事業の欠損金は一般会計から繰り入れている。財政支援はいつまで可能か総合的に考えていく。

苗場山麓自然保護について

町長：関係部署と連携し協議する

問 信濃川ラフティングに人気が出ているが、観光利用するには水量等、検討しなければならぬと思うが、いかがか。

町長 西大滝ダムから信濃川に放流する河川流量は、平成23年9月に最少毎秒20tの水量が確保された。今後も信濃川中流域水環境改善検討協議会のモニタリング調査事業等の提言を受け入れ、協議会と連携し河川環境等に注視して対応していく。

問 タブレット端末を使用する学校が増えつつあるが、津南町では導入しないのか。

津南町独自の条例を制定するに

問 毎春、小松原湿原や妙法牧場にスノーモービルが乗り入れ、貴重な植物や鳥獣に影響を及ぼしているが、乗り入れ規制対策を取るべきと思われるが見解を問う。

町長 北海道には規制区域がある。本州では特別保護地区の一部で規制はあるが、ほとんど規制されていない。当町の自然公園は貴重な植物が生息しており、国の中越森林管理署などの関係部署と連携し、スノーモービル乗り入れ規制を協議していく。

教育長 総務省、文部省とも学校教育に取り入れる試みをしており、新しい学びや学習の導入も前向きに検討する。課題として財源や指導者が必要であり、国県の動向を注視し他市町村と情報交換を進め、関係機関と連携しながら検討する。



小松原湿原と貴重な高山植物



町は国の農業政策に追従するのか

町長：そのままの政策では無理がある

大平 謙一 議員

問 新規就農者の基準を緩和する考えは。

町長 国の新規就農総合支援事業や県の新規就農者支援策は一定の補助基準のもとに実施される。町独自の考えで緩和、変更することは町単独事

問 所得倍増はできると考えるか。

町長 6次産業化の推進は重点的に進めるべき課題と認識している。これら国の政策を活用し農家所得の向上に努めていきたい。

問 新規就農者の基準を緩和する考えは。

町長 国の新規就農総合支援事業や県の新規就農者支援策は一定の補助基準のもとに実施される。町独自の考えで緩和、変更することは町単独事

問 国は農地の8割を担い手に集約とあるが

町長 現在、町の耕地は3,000畝である。10畝で集約すると約300戸。津南町は全3,600戸中、農家は1,700戸。集約し農家が8割減になると津南の人口激減は避けられない。人口減少を少しでも食い止めることが町の将来を左右すると考える。元気な兼業農家を多数残すことが重要である。農業所得倍増や米生産コスト4割削減など不可能と考えるが見解を伺う。



広大なほ場整備が必要

問 兼業農家への支援は重要と考える。

町長 業となり、現状の財政事情では困難である。

問 「人・農地プラン」作成に手を上げる集落はないのか。

町長 「人・農地プラン」は今後の地域営農を守るために農地の集約を進め、担い手の確保を計るプラン作りが主な内容となる。津南町では広域で農地の流動化を進める必要があり、「人・農地プラン」は全町一円で作成することが適している。



介護予防の成果を上げる対策は

町長：マンパワーの強化等を検討する

石田 タマエ 議員

問 介護予防の成果をどの様に評価しているか。

町長 介護予防成果を明確に表すことは難しいが、現在追跡調査をしている。

問 市町村格差が拡大する

町長 要支援1及び要支援2の認定者の介護サービスが介護保険から外れた場合の影響とその対策について伺う。

町長 要支援認定者のサービスが介護保険適用から外れれば、一時的には財政規模は縮小されるが、重度化が進み、中長期的には介護保険財政への負担が大きくなる。

また、サービスやその質について市町村格差が拡大する。市町村事業となれば、今後は先進的な取組をしている自治体の事例を参考にして取り組む必要がある。

今後は更に関係機関の連携強化や地域で支える仕組み作りが必要不可欠となる。加えて、地域包括支援センター機

問 参加率を上げる対策は

町長 新潟県が調査した結果から、介護予防は有効であるとされているが、津南町では参加率が低い。参加率を上げる対策を伺う。

町長 今後は更に参加の呼びかけや、介護予防についての啓発活動の強化を図っていくかなければならない。また、町としてマンパワーの強化や必要な財源投入の可能性も考えながら、どのような方法があるのかを見極めていきたい。



効果が望まれる通所介護予防

アベノミクスの経済政策をどう見るか

町長：成長戦略の形を見極めてから

藤ノ木 浩子 議員

問 景気回復どころか、暮らしが壊れる

町長 アベノミクスの経済政策は、①物価引き上げのために政治が投機バブルを意図的に引き起こそうとする危険な政策、②財政政策といって公共事業に10年間で200兆円と公言、③労働法制の規制緩和で雇用ルールの一層の破壊、④消費税の増税、⑤社会保障の大改悪、こうした政策は景気回復どころか、働く人の所得を奪い、暮らしが壊されてしまう。見解を伺う。

問 国保制度の財政難の大元には、国の予算削減と国保加入者の所得の減少が大きく影響していると考えますがどうか。

町長 市町村国保が抱える構造的な問題として、年齢構成、医療水準とも高く、所得水準が低く保険料負担が重い。収納率低下傾向などが挙げられ

問 景気回復どころか、暮らしが壊れる

町長 アベノミクスの経済政策は、①物価引き上げのために政治が投機バブルを意図的に引き起こそうとする危険な政策、②財政政策といって公共事業に10年間で200兆円と公言、③労働法制の規制緩和で雇用ルールの一層の破壊、④消費税の増税、⑤社会保障の大改悪、こうした政策は景気回復どころか、働く人の所得を奪い、暮らしが壊されてしまう。見解を伺う。



介護サービス利用者も職員も安心な介護保険に

問 安倍政権は介護保険制度のさらなる大改悪を狙っている。その方向をどう考えるか。

町長 「給付費の概ね5%の介護予防給付を市町村事業に」が焦点となっているが、懸念する意見もある。超高齢化社会に突入するが、どう制度を改善するか大きな岐路に立っている。

人口減少問題と歯止め策は

町長：人口減少に対応した町づくりを進める

恩田 稔 議員

問 行政の認識と解決策は

町長 国立社会保障・人口問題研究所の発表によると、12年後の平成37年には、津南町の生産年齢人口（15歳から64歳）は、今より1,700人減って3,900人になると推計される。現在、空き家は300軒以上、高齢者の一人暮らしは570世帯、買い物さえも困っているなど、様々な問題が起きている。今後さらに深刻になると思われるが、町長の考えは。

町長 行政システムは人口減少を前提として構築されたものは一つもない。人口減少により、今後多くの課題を抱えることになる。人口減少を少しでも食い止める施策、あるいはそれに対応した町づくりをしなければならぬ。

問 なぜ地元に残ってくれる若者が少ないのか。

町長 いろいろ理由はあると思われるが、津南町に若者を引き付ける魅力がないということに尽きる。さらにその親も同じように考えていることも現実である。これは大きな課題であり、行政の責任である。

問 少子化の要因である若者の未婚、晩婚が増えている。個人の結婚に行政が世話を焼く必要があるのか、という意見もあるが、このまま放っておけばさらに深刻になる。糸魚川市のように、結婚相談所の入会金を補助するようなことを津南でもできないか。

町長 町にとっても重要な問題であり、他の自治体の発想や取組なども参考に検討してみたい。



男性向け婚活講習会



滝澤 茂光 議員

山林・原野の境界杭の更新を

町長：境界を明確にすることは重要である

問 地権者の境界が確認できない人が多くと考えるが、境界杭を耐久資材で更新することを森林事業で取り組むことにより、山林等に対する意識の高揚を図ることが必要な時期ではないかと考える。

町長 50年程前に使用した境界杭は木製の杭の上部を赤く塗っただけのもので、腐敗し、境界が確認できなくなっているのが現状であるが、取り組む考えはないか伺う。

町長 境界を明確にすることは重要であり、土地の売買も難しい状況も生ずる。境界を明確にすることにより、見まわり等も実施され森林事業を見直すきっかけにもなると考える。

荒廃防止に国の地域活動支援交付金事業等、国費100%での対応が必要と考え、今後森林組合とも協議し、実施する方向で進めてまいりたい。地震により表面がズレているところもあり、GPS装置を使って境界確認が明確にできると考える。



地権者も境界がわからないのが現状

境界杭を耐久資材で更新を

医療費助成を高校卒業するまでに拡充を

問 どこよりも強くてやさしい町づくりを標榜しているところであるが、医療費助成を高校卒業までに拡充し、子育て支援の強化を求めたいが町長の考えを伺う。

町長 今後当町の全体のバランスを考え、他市町村の動向も見据え、拡充も含めて様々なあり方を検討する。



桑原 悠 議員

TPPによる農家所得への影響は

町長：所得シミュレーションはしていない

問 自由貿易の大きな流れの中で、国はTPP交渉参加に踏み切った。重要5品目は聖域とのことだが、交渉は非常に難しいのではないかと。5品目の中で当町に関係があるのは、米、牛豚肉、乳製品だが、万が一関税撤廃された場合、関係する農家にはどれくらい所得に影響があるか。

町長 仮に5品目が例外措置となっても、町内の農産物に影響が出ると考える。国からそれに対する説明や、中山間地域への影響に対する説明がなく、参加ありきの決定に懸念している。関税撤廃された場合、一部の産地は生き残るという試算があるが、魚沼産コシヒカリの産地であっても難しいと考える。所得シミュレーションは実施していない。

町のフェイスブックページの検討状況は

問 1年前、7番(中山)議員より「津南町でも早く始めたらどうか」という提案があり、12月議会では私も提案した。32の町で取組事例がある。当町も運用方針・要綱を定め

農家所得への影響は

たうえで、明るい町づくりのために始めてほしいかか。

町長 12月議会での答弁と状況は変化していない。導入には、様々な角度からの検討が必要である。

灰雨スノーシエッド改修はいつ頃か

問 昨夏、議会で全集落の総代の署名を集め、秋に議長名で県に対して早期改修の要望を行った。その後の進捗状況を伺う。

町長 本年度は計画ルートのボーリング調査が実施されている。今後は、調査の結果分析や費用対効果を比較検討し、26年度に県評価委員会にかけられる予定である。引き続き、早期着工、完了に向けて要望する。



アスパラ王国も復活だ!

子供の医療費助成の拡充を

町長：拡充も含め様々な助成方法を検討している



桑原 洋子 議員

問 現在町は入院、通院とも中学卒業まで全ての子供に医療費の助成をしている。県は新年度予算で、子供3人以上の世帯に、中学卒業までの助成を高校卒業までとした。

しかし、全国最低レベルである。県全体の子供医療費助成制度は、市町村の努力によって支えられている。

十日町市や栄村は、4月から入院・通院の助成対象を18才、高校卒業までとした。町も全ての子供を対象に高校卒業まで広げ、更に県制度の拡充を強く要望していただきたいかがか。

町長 他市町村の動向を見ながら拡充を検討している。県には特に子供1人2人世帯の拡充を要望する。「15才までの医療費無料化を国費に」とする議員の意見に同感する。

改めてTPP交渉参加断固反対の決意表明を

問 安倍首相は、「聖域確保」が明確になったとし、TPP交渉参加に踏み出したが、これはごまかしである。外務省の報告では聖域とされてきた

医療費の拡充を

コメ、乳製品、牛肉、豚肉などについて関税撤廃を求められる。認められたのは「例外を主張しても良い」と言うことだけ。

JA十日町、JA津南町、栄村役場もTPP反対のたれ幕を下げ反対の意志を示している。町長は断固反対と表明しているのに、なんら行動をしていない。庁舎前に垂れ幕、宣言のことはなど意思表示をしたり、町主導で勉強会ができないか。農業立町をかける立場から、あらためて県に申し渡すことを強く求めている。



今こそ 反対行動 (JA津南町)

津南町議会主催

『笑いと涙の認知症介護劇』のお知らせ

新発田市在住の主婦の方々と結成されているボランティア劇団の皆さんにお願いしました。

日時 平成25年8月9日(金)
午後1時～午後3時30分

会場 町文化センターホール
(TEL.765-3134)

内容 認知症介護劇

『笑いと涙の認知症介護劇』

～ハルばあちゃんとその家族たち～

劇団「春」 午後1時～2時20分



総文福祉常任委員会

委員長 草津 進

町消防団との懇談会

▼とき 5月7日(火)

▼会場 町文化センター

▼内容 町消防団幹部12名と意見交換を行い、現状と課題、対策について話し合いました。

現状課題

消防団員の減員が大きな課題であり、このことは津南町に限ったことではなく全国的な課題です。その理由の一つに、勤務先での理解が得られないことが挙げられています。例えば捜索等で出勤日数が増えると業務への影響が大きい。職場によっては早く終われないことが挙げられます。

次に、防災活動を進めるにあたって、各戸の状況が不明瞭であり、最も適した防災指導ができないもどかしさを抱えております。(個人情報保護法により情報収集が困難)

今後の対策について

地域で防災の働きかけを実施してはいますが、更なる強化を図るためにも、団員の増員が急がれます。OB団員の活躍にも期待したいところです。また、各地域に自主防災組織が発足してはいますが、有事の時に機能しないことがあるので、定期的に訓練を

実施して欲しいとのこと。その時は南分署に連絡すると指導してくれるので活用して下さい。

懇談会を終えて、委員会の取組は

高齢者世帯等へは、緊急通報システムの様な機能が必要であり、検討していきたいと思えます。

また、消防団員の増員については、我々議員も事業所への働きかけや、地域での団員確保を共に課題として取り組んで行かなければならないと考えます。



消防団旗更新

昭和30年(町村合併の年)以来58年間という永きにわたり、津南町消防団の象徴として、数々の実績を重ねてきた消防団旗がその役目を終え、

6月30日に新たな消防団旗へ引き継がれました。
.....
本年は、元旦早々の火災に始まり、豪雪の中での行方不明者の捜索等、地域の消防団の活躍に敬意と感謝を申し上げます。

消防団長 大島則雄さんより



今年元旦に発生した建物火災は忘れることができません。残念なことにお二人の尊い命が犠牲となつてしまいました。

「火」は私たちの暮らしに欠かせません。「火」のおかげで今の生活があると云っても過言ではありません。しかし、うっかりしたり、使い方を間違えると「火」は「災」となり「災」となり「火」は「災」となり「災」となり「火」の用心をお願いいたします。

相談支援専門員より



内山恵美子さん 古野 潤さん

「相談支援センターすみれ」は障害をお持ちの方やご家族などからの相談を受け、働く場や日中を過ごす場など、サービス提供の調整をします。

またこんなこと困っている「どんなふうに暮らしたらよいか」なども一緒に考えたり、支援をさせていただきます。

町交通安全協会との懇談会

▼とき 6月5日(水)

▼会場 役場 大会議室

▼内容 今回初めて町交通安全協会の役員7名を招き、津南町における交通安全の活動や問題点を協議いたしました。

協議会の構成

会長及び下船渡、外丸、上郷、中津、芦ヶ崎の5支部と女性部で構成

主な活動紹介

- ①春、夏、秋、冬の交通安全運動
- ②交通指導車による広報や街頭指導
- ③運転者講習会(警察署と協会による講話)
- ④飲酒運転防止に向けて飲食店廻りなど
- ⑤幼児交通安全教室(保育園児と保護者の指導) 女性部主体

ただし、交通安全協会には法的な権限はなく、交差点や横断歩道、事故多発地などで幅広く啓蒙活動を行っています。

現在の問題点と課題

- ①支部では役員数が少ないところもあり、役員の勧誘も難しく、何年も動いていない方もいます。また女性部があるのは県下でもめずらしいのですが、少ないので増員を呼びかけています。
- ②協会の活動は町民の皆様の協会費で賄っていますが、交通安全協会からの事業者離れなどがあり、今後引き続きご協力をいただきたいということです。
- ③現在、具体的な危険事例では、R405号の通称「電車道」で農繁期になると車道の両側に作業車が駐車し、一般車の通行が危険であるため、駐車スペースの整備が必要です。また、灰雨のスノーシエッドの事故の問題

町内福祉施設視察

▼とき 5月23日(木)

▼場所 障害者支援施設(サンファーム・すみれホーム・すみれ工房)



サンファームでしいたけ作り

サンファーム

●現在27名が通所(十日町15名、津南9名、南魚沼3名)しており自宅まで送迎を行っています。

ビニールハウス内で椎茸を栽培しリオンドール・JA・中央青果の市場に出荷。品質がよく好評で注文が多くなつてきているとのこと。

椎茸の売上と訓練給付金で給与支給と施設の運営をしています。

施設内では、皆さんが挨拶など礼儀正しく一生懸命働く姿が印象的でした。その中で7、8名から一般就

も話題にあげられました。

懇談会を終えて、委員会の取組は

- ①危険区域の横断歩道や信号機の設置などの要望には、交通安全協会だけでは難しいので、行政や議員も一緒になって活動していきたいと考えております。
- ②支部役員の不足は慢性化しており、加入呼びかけなど積極的に行い、安全・安心の町づくりを目指します。

本協会では特に事故の多い高齢者や保育園児の安全指導に力を入れ、地道に活動されていることに敬意を表します。

町交通安全協会長 半戸正志さんより



安心して生活できる津南町のためには、一人ひとりが交通事故の恐ろしさや悲惨さを認識し、交通ルールを守って、安全運転に心がけることが重要です。お互いに声を掛け合って「交通事故0の町」を目指しましょう。

産業建設常任委員会

委員長 大平 謙一

町農業改良会議

4月19日(金)

場所 役場 大会議室

内容 「平成25年度津南町農業改良会議並びに、津南町経営・生産対策推進会議」に出席しました。

この会議は、毎年4月に町内の農業関係21団体が一堂に会して、農業政策について意見交換をする場です。各団体が実績と本年度の事業計画を中心に発表し、互いに意見を交わすことを目的としています。

産業建設常任委員会にとって、特に生産現場の実情を聞くことができ、貴重な機会となっております。

主な話題として、津南産雪下人參の知名度が上がってきていること

葉たばこの供給過剰が解消されたこと

切花の売上高が伸びていること

津南マミーズによる特産品開発が終了し、今後は販売に向かうことなどが出されました。

課題として、畜産の飼料価格の高騰、限界集落での農業のあり方が出されました。

県の方々からもご出席いただき、「人・農地プラン」の推進と魚沼米の

藤の川原（小型マンモスの化石）などを視察

（所見）できるだけ多くの町民に関わっていただきながら、新たな観光名所づくりが必要だ。推進は教育委員会、地域振興課だけでなく、他の部署と連携して盛り上げていくことが大事であり、進め方をチェックしていきたい。さらに、立ち寄った観光客が回遊することで、中心街にも賑わいが波及していくことに期待したい。



ジオパークミーティングの様子（見玉）

⑤ 町道赤沢東線消雪パイプ布設換工事

（概要）

老朽化消雪パイプ改修（赤沢地内）
工事費 1,870万円
延長 559m 道路幅 5m

品質向上に向けた方向性が示され、議論を深めました。

町農業委員会会長 上村芳男さんより



会議では、農業委員会の活動をお話させていただきました。昨年は町長に要望書、議会に請願を出しました。狭山市との交流や、女性委員を中心とした米粉開発も行いました。今年は遊休地の調査を進める方針です。

所管事業成果巡視

5月7日(火)

会場 町内各所

内容 次の6箇所について、現地の完工状況を巡視、ジオパーク関連地を視察しました。

当日は、地域振興課・建設課・教育委員会から立会い説明を求め、細部にわたって検証を行いました。各所について委員から出た所見をまとめ報告します。

（所見）順次、他地区の布設換工事を継続する必要があります。



赤沢東線消雪パイプ布設換

⑥ 町道新清水屈岨線災害復旧工事

（概要）

道路の山斜面崩落復旧（屈岨地内）
工事費 3,214万円
斜面擁護壁・舗装道路延長 252m
（所見）順調に復旧が進んでいるが、10年、20年後には人口減少が進み、屈岨のような集落の今後を危惧している。



町道新清水屈岨線災害復旧工事

① 県営中山間地総合整備事業

（圃場整備）割野地内工区

（概要）
ほ場面積 13・8ha
工事費 1億1,907万円
補助率 国・県・町で95%
地元負担5%

（所見）まだ整備しなければいけない所が残っている。農地を集積し荒廃地を作らないという国の方針もあり、今までより大区画で整備していくべきではないか。



ほ場整備後の水田

② 「中津川運動公園造成工事（2ヶ年）」

（概要）

多目的グラウンド・テニスコート・ゲートボール専用コート・子ども遊具場・駐車場5箇所・更衣室など
総工事費 3億8,443万円

（所見）町民だけでなく、町外の方にも開かれた施設として、大いに利活

町旅館組合との懇談会

5月9日(木)

会場 大会議室

内容 町内で旅館やホテル営業をしている方々8名と意見交換を行いました。

今、町は交流人口を増やし、持続可能な地域経済を構築するという方向性を出しています。そうした中で、旅館業は観光客、ビジネス客、帰省客を受け入れ、直に接する重要な役割を担っています。

産業建設常任委員会では、今後交流人口の増加を図り、旅館業が発展するために必要な政策の立案のため、情報収集をしました。

以下の2点にまとめます。



町旅館組合との懇談会

① 現在の顧客について

各旅館によって様々ですが、津南町の顧客はリピーターが多いと分かりました。現在の顧客が何を求めているのか聞いてみたいところ、魚沼米、山菜、きのこなど地元の食材を求める客が相当いるとのこと。各旅館は、食材単価の高さに苦労しつつ工夫しているそうです。また、自然、歴史文化や「ふるさと案内人」など人の良さも魅力のようです。

② 新しい顧客の開拓について
リピーター拡大のために、顧客の開拓についても意見交換しました。各旅館からきちんとした対応や、宿泊プランの工夫をしていくと話がありました。また、「外国人観光客誘致を政策として進めてほしい」、「町の施設や名所について親切的な情報発信をしてほしい」などの要望もいただきました。

町旅館組合長 山岸祐二さんより



懇談会でお話させていただいたように、私たちの仕事は津南にいらっしゃるお客さまと最も身近に接する仕事です。今後、お客さまの声を町内の観光関係者に届けることも、津南の情報発信の役目も担っていきたいと思います。

用されるよう期待したい。



新しくなった中津川運動公園

③ 中央地区高区配水池築造工事・取水・導配水管工事

（概要）

中央地区簡易水道用の配水池築造と取水・導配水管の工事（中深見・船山地内）
スチレス鋼板製150㎡（2池式）
導配水管・ポンプ施設など

総工事費 1億5,985万円

（所見）生活用水は町民の暮らしに欠かせないので、不具合のある場所は順次整備する必要があります。

④ ジオパーク関連地内視察

（概要）

苗場山麓ジオパーク認定に向けてのエリア、（見玉地内「屏風岩」）穴

シリーズ・町民の声 **私も一言**



町民一日議員



反里
もと やま まさる
本山 賢さん

合併ではなく、自律路線を選び、毎日町民のことを考えてご活躍されている議会関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。
 さて、議会関係者の皆様に提案があります。それは、一町民として、議会で発言することです。住民の声を吸い上げるために、投書箱等を用意することはよく考えられますが、直接議会で町民が発言するチャンスはありません。そこで、次のようなシステムはいかがでし

ようか。
 ①町民は文書にして考えを示す
 ②その中から議員の皆様が一つ選ぶ
 ③選ばれた人は議会で自分の考えを話す
 ④採用されたら「議会賞」などもし、自分の考えが議会で取り上げられるチャンスがあったら、今以上に町民自ら、みんなが幸せに暮らすための方法を考え出すような気がします。

津南の食材はすばらしい



大割野
やくち まゆみ
矢口真由美さん

大阪から津南町に嫁いでお店を開いてからもうすぐ15年になります。津南町に来て、まず一番に感じたことは、四季折々の食材がすばらしいことです。春の山菜やアスパラ、夏野菜のトマトやキュウリなど、とてもみずみずしく、美味しくてびっくりしました。大阪ではとても味わうことはできません。
 今は津南の食材をそのまま生かし、工夫をこらして色々メニューを考えて作っています。お客様が「おいしい」と言って食べていただいた時が一番うれしいです。津南町の農

業も後継者が不足し大変ですが、ぜひ、お米や野菜づくりを継続していただきたいと願っています。
 私は食べるのが大好きでしたが、昨年突然入院することになり、何日か断食をしなければなりません。その時、毎日おいしく食事ができることはなんて幸せなことなのだろうと実感いたしました。
 私には5年生の男の子がいて、「一緒に体力づくりをしよう」と言っていますので、これからは走って、体を壊さないようにがんばりたいと思います。



参議院選挙も終わり暑い夏を迎えました。スイカや枝豆、とうもろこしのおいしい時期となりましたが、夏バテしないよう乗り切りましょう。
 さて今回の「議会だより」では、委員会レポートで議員の活動内容に重点を置きました。
 また、懇談いただいた会の代表の方にもコメントをいただき、これからの活動に役立てたいと考えています。左の写真は議員の自主研修で伺った松之山地区の廃校を利用した宿泊施設「三省ハウス」です。(風)

編集後記

